

# 藤田東湖の真筆

## 福島の旅館で発見、茨城大に寄贈

幕末の代表的な水戸学者、藤田東湖（1806～1855）の直筆の書が福島県いわき市の老舗温泉旅館で見つかった。尊皇攘夷を唱える幕末藩士の理論的支柱になった東湖の「正気歌」の基となる漢詩を揮毫したもので、真筆と鑑定した専門家は「貴重な史料だ」としている。

【八田浩輔、写真も】



真筆と確認された東湖の書について語る佐々木・茨城大教授

## 忠君愛国の漢詩揮毫

書は縦195センチ、横142センチで保存状態は良好。いわき市の湯本り、経営者の親族で茨城大

温泉にある旅館「大滝館」で保管されていた。木寛司教授を通じて茨城大に寄贈された。東湖に關する著書もある常磐大の鈴木暎一教授（日本近世史）が16日

は中国・南宋の重人、文天祥の同名の漢詩に韻を合わせて作られたもので、見つかった書は文天祥の詩が書かれていた。

夜に鑑定し、筆跡や筆の勢い、落款などから真筆と確認した。

東湖は9代水戸藩主・徳川斉昭の腹心として藩政改革を推進した。忠君愛国の道義的精神を書いた長編の漢詩「正気歌」は、斉昭の江戸召還を機に幽閉された際に書かれたとされる。尊皇攘夷を唱える幕末藩士たちを感化した。鈴木教授によると、「正気歌」

## 自らの生き方重ね合わせ？

鈴木教授は「きちんとまじめに書かれている印象だ。文天祥と同様に幽閉の身となり、自らの生き方を重ね合わせて書かれたものではないかと推測。「東湖の書自体は珍しいが、文天祥の『正気歌』を揮毫したものは初めて見た」と話す。

茨城大は補修したうえで、一般公開を検討している。